

中学部の取り組み

1. はじめに

中学部では、「個別の支援計画」を基本に、「自立と社会参加に向け、生徒一人一人の障がいの実態を的確に把握し、学力の基礎・基本と社会性を身につけさせ、社会に参画する意欲と豊かな心を育てる」をテーマとし、授業に取り組んだ。

2. 生徒の実態

中学部の生徒は、本年度通学籍21名である。生徒の実態と指導形態は以下の表にまとめる。

生徒の実態						
移動	自力歩行	2名	部分介助	2名	車椅子移動	17名
食事	自立	0名	部分介助	5名	全介助	16名
排泄	自立	0名	部分介助	3名	全介助	18名
コミュニケーション	会話可	0名	簡単な会話可	3名	表情・動作等	18名
医療的ケア	口腔・鼻腔吸引	3名	気管切開部からの吸引	1名	胃ろう部からの注入	7名
	鼻腔経管注入	1名				

指導形態

学習グループ	人数
Aグループ（準ずる課程）	0名
Bグループ（知的代替の教育課程）	0名
Cグループ（自立活動を主とする教育課程）	21名（男子 9名、女子 12名）
Dグループ（訪問教育課程）	0名

3. 取り組み・まとめ

障がいの重度・多様化、医療的ケアを必要とする生徒が増加する中、一人ひとりの実態を把握し、個々の生徒の課題を明確にした。その課題を中心に個別の教育支援計画や個別の指導計画を作成し、学習活動全般にわたって課題解決に向けて取り組んでいる。

学習については、教科の特性や指導目標等により、複数グループに分けたり、合同で取り組んだりする場合もあった。特に今年度については、学習グループを増やし少人数で授業を行い、生徒の個別の課題に応じて取り組む時間が増えた。より深い学びに繋がるよう創意工夫を行うことができた。

「総合的な学習」では、各グループでの校外学習を通して様々な体験をすることができた。

生徒の転出や、出席の実態に伴い、学習グループの指導形態を1学期の段階で見直し、2学期から新しく学習グループを展開することができた。時間割の変更など組織として、柔軟に対応することができた。

交流教育においては、居住地の中学校との相互理解に努めるため、授業や行事等に参加した。本校の近隣中学校との交流は、活動が中断している。

4. 各グループの時間割 (例)

A. 中学校に準ずる課程

Aグループ	月	火	水	木	金
1	自立活動	自立活動	自立活動	自立活動	自立活動
2	国語	社会	総合	保健体育	数学
3	理科	保健体育	総合	国語	音楽
4	社会	数学	理科	英語	社会
5	技術家庭	美術	学級活動	自立活動	国語
6	技術家庭	美術	自立活動	数学	英語

B. 知的代替の教育課程

Bグループ	月	火	水	木	金
1	自立活動	自立活動	自立活動	自立活動	自立活動
2	保健体育	美術	総合	自立活動	体育
3	社会	美術	総合	英語	音楽
4	自立活動	自立活動	自立活動	自立活動	自立活動
5	自立活動	国語	学級活動	技術家庭	理科
6	数学	数学	自立活動	技術家庭	国語

C. 自立活動を主とする教育課程

C1グループ	月	火	水	木	金
1	自立活動	自立活動	自立活動	自立活動	自立活動
2	たいいく	自立活動	たいいく	ことば	ことば
3	おんがく	自立活動	おんがく	かず	かず
4	自立活動	自立活動	自立活動	自立活動	自立活動
5	ことば	美術	学級活動	そうごう	せいかつ
6	かず	美術	自立活動	そうごう	せいかつ

C2グループ α	月	火	水	木	金
1	自立活動	自立活動	自立活動	自立活動	自立活動
2	たいいく	おんがく	たいいく	みるきく	自立活動
3	自立活動	自立活動	自立活動	みるきく	おんがく
4	自立活動	自立活動	自立活動	自立活動	自立活動
5	自立活動	つくる	学級活動	そうごう	かんかく
6	自立活動	つくる	自立活動	そうごう	かんかく

C2グループ β	月	火	水	木	金
1	自立活動	自立活動	自立活動	自立活動	自立活動
2	たいいく	みるきく	たいいく	おんがく	かんかく
3	自立活動	みるきく	自立活動	自立活動	かんかく
4	自立活動	自立活動	自立活動	自立活動	自立活動
5	つくる	おんがく	学級活動	そうごう	自立活動
6	つくる	自立活動	自立活動	そうごう	自立活動

D. 訪問教育課程

訪問グループ	月	火	水	木	金
午前	A	B	A	C	A
午後	B	C		B	C